

### (3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

|             |                                                                                                                                                                              |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| NITS・教職大学院・ | 実施機関名・連携機関名<br>実施機関：山口大学教育学研究科（教職大学院）、教職員支援機構（NITS）山口大学センター<br>連携機関：山口県教育委員会                                                                                                 |
| 教育委員会等      | 事業名：NITS・山口大学教職大学院・山口県教育委員会コラボ研修<br>「誰一人取り残されない学びの保障と不登校を考える NITS カフェ」                                                                                                       |
| コラボ研修プログラム  | 研修等名：NITS・山口大学教職大学院・山口県教育委員会・山口県 PTA 連合会コラボ研修<br>「誰一人取り残されない学びの保障と不登校を考える NITS カフェ」                                                                                          |
| 支援事業報告書     | 開催日時：令和 6 年 12 月 21 日 13:00～17:30<br>開催場所：公立学校共済組合山口宿泊所「セントコア山口」(山口市湯田温泉 3-2-7)<br>参加人数と属性：100 人 学校関係者（小中高教職員）24 人、教育委員会関係者 3 人、学生 51 人、<br>講師 3 人、教職員支援機構関係者 4 人、大学教職員 15 人 |

#### 目的：

学校教育を学ぶ側からの視点で捉え直し、全ての子どものよさ、強みや可能性を引き出す教育姿勢と手法の実現が求めている。しかし、山口県も不登校児童生徒が過去最多となり、生徒指導上の喫緊課題となっている。コミュニティ・スクールや地域学校協働本部を中心として、学校・地域が連携・協働した取り組みが進められ、不登校に関する教職員研修や相談対応も積極的に展開されているが、不登校の増加に歯止めがかからない。

そこで、教職大学院が山口県教育委員会と連携し、現職教員、教育委員会担当者や教育関係者を対象に、不登校に関するセミナー（カフェ）を行うことをとおして、「誰一人取り残されない」学校や地域づくりを考えるとともに、教育実践を牽引できる教職員の力量形成、気づきと変化を生み出す場とする。

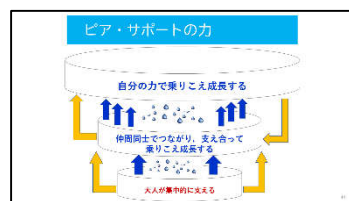
#### 内容：

##### (1) 開会行事

NITS 山口大学センターの和泉研二センター長の開会挨拶に続いて、事務局より NITS カフェの紹介、「誰一人取り残されない学びの保障」をふまえたカフェへの期待、研修行事の目的と内容構成等について説明を行い、研修デザイン（全体像）を全参加者で共有した。

##### (2) 専門講演

研修行事の基盤的研修（参加者の学びの流れをつくり出す）として、広島大学大学院人間社会科学研究科教授、公益社団法人学校教育開発研究所代表理事の栗原慎二先生が「学びにアクセスできない子どもたちと関わって ～不登校をどう捉えるか～」と題した講演を行った。長年、学校教員や専門機関の担当者、指導者として、いじめ、不登校や教育相談等に関わった豊かな経験や指導事例をふまえた質の高い講演となった。児童生徒の現状、今後の生徒指導の在り方、岡山県や宮城県で展開された包括的生徒指導プログラムの実証結果、マルチレベルアプローチと成長・適応支援の在り方、ピア・サポートや協同学習の意義、social-bonds 理論と不登校や協同的な学習と個別最適な学習を可能にする Universal Design for Learning 等の内容は、参加者自身が、日々の不登校や生徒指導に関する実践と探求を継続しあい、新たな気づきをもって自身を変えていけるような「課題探求力の育成を目指す研修」に必須なものと感じられ、多く参加者が研修後の振り返りの中で「目から鱗が落ちた」と表現し、新たな気づき、視野の広がりや捉え直しにつながったようであった。



##### (3) 実践事例研究

続いて、「中学校における不登校への取り組み」について、山口市立大内中学校の中川真治教諭が、「オンライン活用による不登校児童の支援」について、萩市立川上小学校の山本豊三校長が実践事例発表を行った。

中川教諭からは山口県で進む「ステップアップルーム（校内教育支援センター）」のサポート教員アドバイザーとしての経験をふまえ、山口県における不登校の現状、不登校の捉え方と魅力ある学校づくり、COCOLO プランと SUR の位置づけ、大内中 SUR の現状と取り組み等について、年 4 回実施する「FIT（生活アンケート）」データや豊富な画像資料も加えて発表された。

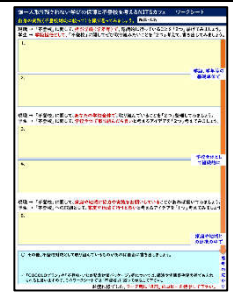


山本校長からは、「教員は腹をくくって立ち向かう。管理職は全力でサポートする。」学校づくりの大切さが語られた後、オンライン活用に至るまでの葛藤、タブレットやアプリ活用の様子と環境整備の大切さ、生活リズムのサポートや児童のペースに合わせた支援等に関する成果について報告された。両発表とも、児童生徒や学校、教職員集団の「現実」に目を向け、一人一人の児童生徒の願いや希望に寄り添う教育実践として、指導者や参加者から高い評価を得た。



#### (4) 班別研究協議「カフェ（Café）しましょう！」

その後、「誰一人取り残されない学校づくりのために」をテーマとして、校種別・班別の研究協議を行った。参加者には、研究協議の質を高めるため、そして教員個人の取組を学校組織全体の動きの中で捉え、家庭や地域社会との連携・協働を意識して考えられるように構成した「事前探求課題」を課した。会場の都合でやや短時間にはなったが、児童生徒の見取りと教育相談、日頃の学級・集団づくりと授業改善、早期発見・早期対応、教職員の協働性向上や家庭教育支援等について、各班で活発に経験交流や好事例交換がなされ、和やかな空気感の中で前向きで開発的なワークとなった。



#### (5) 講評・閉会行事

山口県教育庁学校安全・体育課の中村研一指導主事が、不登校対策をオール山口による「自分らしさ・つながり・成長の居場所づくり」と捉える山口県の不登校対策に本日に講演・実践事例発表の内容を加えた講評、指導助言を行った。



最後に、山口大学教職大学院の佐々木司専攻長が謝辞および閉会挨拶を行い終了した。

#### 成果：

研修項目・内容ごとの「学びの整理」は e-メールで提出させ、参加者の変容を学びの実感、自身への問いかけと今後への意識で見取っている。各校種の教員とも学びの実感が大きかった。「学びの整理」を一部紹介する。

- ・「不登校対策として、支持的風土のある学級づくりや心理的安全性の高い教室空間、仲間づくりの重要性を改めて実感しました。これらを一体的に進めるためには、教室単位だけでなく、職員室経営や研修体制づくりといった学校組織に相似形として取組を学校や地域に拡大することが有効であると考えます。また従来の「生徒指導」の概念が指導の側面に偏りがちであった点を反省し、発達支持的生徒指導への転換をめざす必要性を痛感しました。この視点から、現代に求められる生徒指導を「生徒支援」としてリフレーミングすることが、子どもたち一人ひとりの成長を支えるための鍵であると理解しました。本講演で得た知見を、学校現場での具体的な実践に活かしていきたい。」（小学校）
- ・「高校では卒業要件に関することあり、小中学校に比べて対応してみれば淡泊に感じられることが多い。高校教員はそれを仕方のないこととっており学級改善等と結びつけていない。「学校が子供の変化に適應できない」という言葉がそのまま当てはまり、如何に学校の問題として捉えていないか痛感した。いまだにトップダウン的な指導を行っている現状から少しずつ UDL の感覚を全教職員がもてるようにしていきたい。」（高等学校）
- ・「講演や実践発表を拝聴して、「つながり」の大切さを再認識しました。講演では、不登校の現状とアプローチについて深く知ることができました。その後の実践発表とも響き合うところがあり、学びの多い時間を過ごすことができました。なかでも、「つながり」は、教育学の分野でも「社会関係資本」が言及されてきましたが、この「つながり」をどうデザインするのが処方箋の一つになりそうだと感じました。」（大学）
- ・「改めて、試行錯誤、手づくりの支援はとても大切で、一步でも意味あることと学びました。」（小学校）



#### 「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

・本研修は、日々の不登校に関する実践と探求を後押しし、既存の手法や考え方を捉え直す中で、教育実践を再構成、変革できるよう「課題探求力の育成を目指す研修」として実施した。

そのためには、「研修を通じた力量形成の道筋の設定」が必要と実感した。自身の不登校に関する実践の省察（事前探求課題）、不登校児童生徒や保護者の現状や対応に関する理解（講演）、好事例に掴む本質と先進性（実践事例研究）、対話で深める自身の在り方探求と実践への動機付け（カフェ）と続く力量形成過程を重視した研修を提供していきたいと考えた。

また、「講演による不登校の知的理解、実践事例研究等による新たな気づきが、対話（カフェ）をとおして自身の変容と以後の実践への励ましにつながる」との参加者の振り返りがあった。学びや自身を変容させるために「種をまく」過程を重視すべきと考えたとともに、参加者自身の学びやすさを大切にしたい研修環境づくり、連带的・支持的風土に溢れる対話（カフェ）の有効活用を進めていきたいと考えた。同時に、100 人規模の研修行事にあっては、「カフェ」形式で豊かに対話できる大型会場、円卓、音響設備やフレキシブルな設営変更を可能とする施設が必要であると実感した。

#### アイデアや工夫したこと：

- ・参加者が、研修そのものや中身を「自分ごと」とすることが必要である。自分に近い研修＝日頃の実践が研修の出発点であり、日頃の実践を「上手くいっている部分」と「打ち破れない壁」として整理し、仲間に知ってほしいこと、伝えたいことと聞きたいこと、教えてほしいことを持ち寄れる研修にしたいと考えてきたこと。「事前探求課題」→開示と共有→どうしたらよいかの探求→新たな目標設定や課題立てとしたいと考えたこと。
- ・参加者の「学びの深まり」をつくり出すため、企画段階から、県教委（学校安全・体育課）と組織的、計画的に連携し、講師選定や「事前探求課題」内容等についても協議しながら進めたこと。
- ・研修の企画編成から運営にあたり、「カフェ」形式の魅力である心地よさ、温かさや連带的空気感を大切にしたい研修環境づくりに配慮したこと。